

**奈良県広陵町 「地域連携サポートプラン」**

**提 案 書**



**平成30年3月**

**国土交通省  
近畿運輸局  
近畿運輸局奈良運輸支局**

# 奈良県広陵町の概要、公共交通に関する主な取組

## 町の概要

- 昭和30年に馬見町・瀬南村・百済村が合併して広陵町を発足、翌昭和31年に箸尾町を編入、昭和32年に藤森、池尻が大和高田市へ編入合併され現在の広陵町となる。
- 奈良盆地の中西部に位置し、東は三宅町及び田原本町、南は大和高田市及び橿原市、西は香芝市及び上牧町、北は河合町と接している。近畿圏の中心都市である大阪市へは、直線距離で30kmの位置。
- 人口は年々僅かながら増加しており、平成30年2月末時点では35,028人、高齢化率は24.5%。
- 靴下及びプラスチックが主要産業。



広陵町イメージキャラクター  
かぐやちゃん

奈良県広陵町  
・人口：約35千人  
・面積：16.30km<sup>2</sup>



## 公共交通に関する主な取組み

### ◆基本方針・計画・体制

H22	広陵町地域公共交通活性化協議会 設置
H27	広陵町生活交通ネットワーク計画 策定
H28	広陵町地域公共交通網形成計画 策定

広陵元気号



### ◆取組み

H21	広陵元気号運行（運賃：無料、運行方式：予約型）
H24	広陵元気号の運行方式を定時定路線型に変更
H25	広陵元気号の路線、時刻、車両の見直し
H28	広陵元気号の再編（幹線：1路線、支線：2路線）、試行運行開始（4～9月）
	広陵元気号の運賃有料化による本格運行開始（10月～） 広陵元気号車両ラッピング、総合時刻表作成・配布

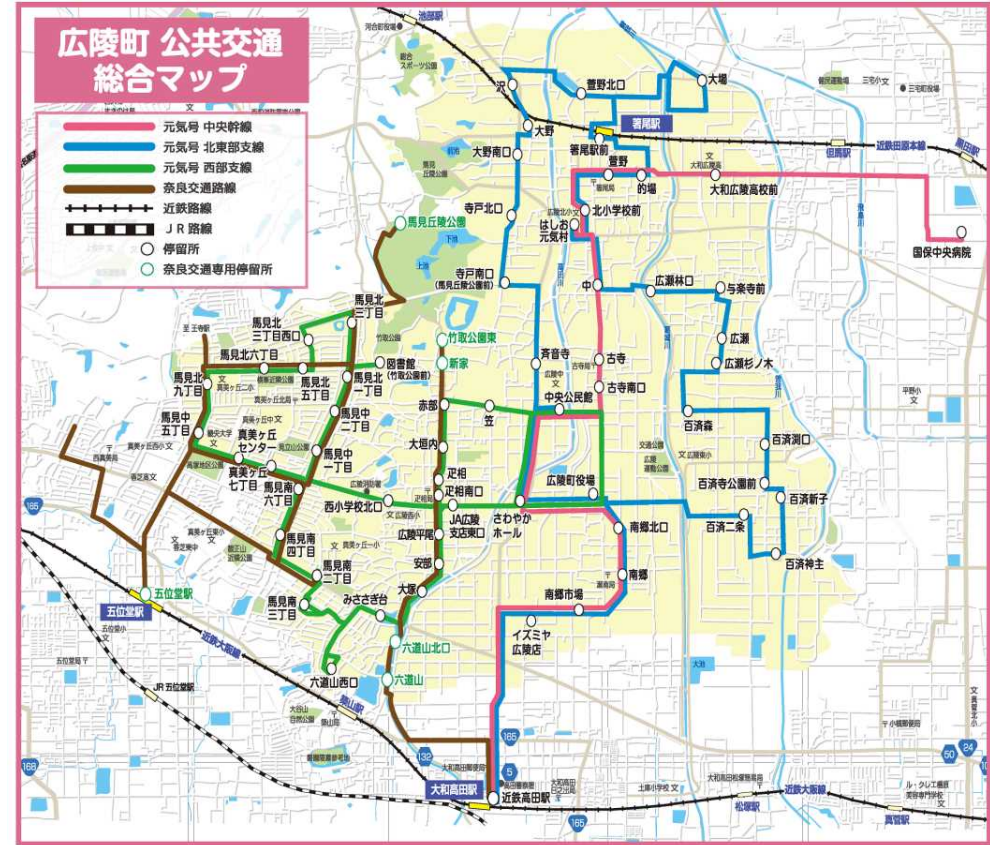
総合時刻表



# 奈良県広陵町における公共交通の現状と課題

## 公共交通の現状と課題

- 町内の公共交通網は、鉄道1駅（近鉄田原本線 箸尾駅）、奈良交通路線バス5路線、コミュニティバス 広陵元気号3路線（奈良交通へ運行委託）により形成。
- 奈良交通路線バスの休廃止をきっかけに、平成21年4月から広陵元気号の運行を開始。
- 平成26年10月から奈良交通路線バスへの運行費補助を行っており、年々補助額が増加。
- コンパクトシティといったまちづくりの観点や観光政策との関係に留意しつつ、鉄道・バス・タクシーの各公共交通が連携して、町にとって真に必要な公共交通を構築するため、平成28年5月に「広陵町地域公共交通網形成計画」を策定。
- 広陵元気号の利用者数は増加傾向にあるが、利用が伸び悩むエリア・路線もあり、さらなる利用促進が必要。
- モビリティ・マネジメント等の推進により公共交通の利用促進に努めているが、より効果的、効率的な情報発信の検討が必要。
- 箸尾駅の利用者数の減少に伴い、駅周辺も衰退。



広陵元気号利用者数（人）

H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
2,516	2,038	2,796	16,856	22,618	24,670	25,500	37,954

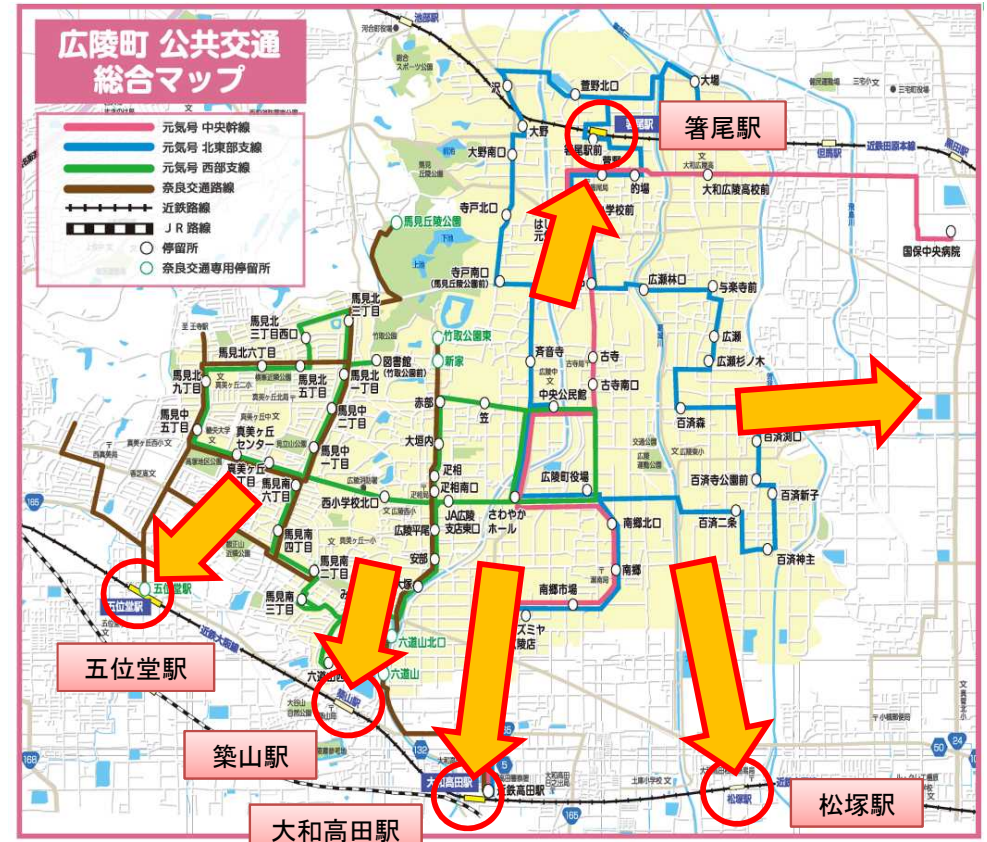
## 課題

- ① 広陵元気号の運行効率化・利便性向上
- ② 広陵元気号の利用促進（需要創出のための仕掛けづくり）
- ③ 地域住民の各公共交通機関の利用啓発・意識醸成



## 課題① 広陵元気号の運行効率化・利便性向上

- 役場等の公共施設は町域のおおむね中央部にあるものの、大阪方面への通勤通学者の多くが大和高田市にある近鉄大和高田駅・香芝市にある近鉄五位堂駅を利用する一方、町内唯一の鉄道駅である箸尾駅は町域北端付近に位置し、町域東部の住民には東隣の田原本町への往来も多く見られる等、地域や移動目的ごとに流動の方向にばらつきがある。
- この結果、平成28年に再編したコミバス・広陵元気号も、行政リソース・事業者のサービス供給力の制約の中、限られた台数で、町内外の駅・公共・医療・商業・観光施設等へのアクセスと多様な役割が求められることとなり、以下のような課題が生じている。
  - ・ 北東部支線、西部支線とも右・左回り交互の循環型の路線であるため、路線が長大化し、同一方向への便は運行間隔が長くなる傾向にある
  - ・ 利用者の総数自体は伸びているものの、収支率は未だ低調であり、便の時間帯によって利用者数に大幅な粗密がある
  - ・ ダイヤに規則性がなく利用者にとって分かりにくい
  - ・ 西部支線は、公共施設へのアクセス確保を主たる目的として運行を開始したが、公共施設付近の停留所での乗降は必ずしも多くない
  - ・ 利用者の発着地・移動目的等の詳細な実態が把握できていない



# 課題解決に関する提案（奈良県広陵町）

## 課題①への提案

### 利用実態の把握

- サービスの改善、合理化の前提として、利用実態の把握は不可欠である。まずは広陵元気号の乗込調査・利用者アンケートを実施し、利用者のトリップ状況を詳細に把握する必要がある。

### 利用状況に即した運行形態の検討

- 把握した利用実態に即して、利便性と効率性のバランスを取りつつ、以下のような方策を通じて広陵元気号の路線・ダイヤ・運賃等のサービス水準を見直すことが重要である。

#### 路線

- ・ ともに大和高田駅にアクセスする中央幹線と北東部支線の役割整理、西部支線のルート合理化、循環路線形式の要否の検討 等

#### ダイヤ

- ・ パターンダイヤ化（例：駅・乗継拠点を定時発車）による利便性向上、利用の極端に少ない深夜・早朝時間帯便の見直しによる経費削減 等

#### 運賃

- ・ 路線バスとの関係も考慮しつつ、サービス水準に見合った適切な水準への見直し 等

「赤かめ」周遊バス時刻表[平日]

◆奈良(大人) 橿原神宮前駅東口→石舞台  
【お問合せ】奈良交通お客様サービスセンター

< 橿原神宮前駅東口 → 石舞台 → 飛鳥駅 >

近鉄連絡時刻	急行	急行	急行	急行	急行	急行	急行	急行	急行			
大阪御所野橋(発)	6:30	7:50	8:20	8:50	9:20	9:50	10:20	10:50	11:20			
橿原神宮前(着)	7:10	8:28	8:59	9:29	9:59	10:29	10:57	11:29	11:57			
橿原神宮前駅東口	6:27	7:07	7:37	8:06	8:36	9:06	9:36	10:06	10:36	11:06	11:36	12:06
和田町西	6:31	7:10	7:40	8:09	8:39	9:09	9:39	10:09	10:39	11:09	11:39	12:09
橿原和田	6:32	7:11	7:45	8:41	9:11	9:41	10:11	10:41	11:11	11:41	12:11	
香蓮駐車場				8:42	9:12	9:42	10:12	10:42	11:12	11:42	12:12	
香蓮	6:33	7:12	7:48	8:43	9:13	9:43	10:13	10:43	11:13	11:43	12:13	
甘藷庁	6:34	7:13	7:47	8:44	9:14	9:44	10:14	10:44	11:14	11:44	12:14	
飛鳥	6:35	7:14	7:48	8:45	9:15	9:45	10:15	10:45	11:15	11:45	12:15	
明日香小川				7:50	8:47		10:47					
明日香奥山				7:53	8:50	9:16	9:45	10:16	10:50	11:16	11:48	12:18
飛鳥資料館				8:52	9:19	9:45	10:19	10:52	11:19	11:48	12:18	
飛鳥文化館	6:40	7:19	7:57	8:57	9:23	9:53	10:23	10:57	11:23	11:53	12:23	
万葉文化館西口	6:41	7:20	7:58	8:59	9:24	9:54	10:24	10:59	11:24	11:54	12:24	

▲パターンダイヤの具体例  
明日香村「赤かめ」周遊バス

### 経路検索事業者への情報提供の拡充

- 経路検索におけるバス情報の充実に向け、平成29年3月に国土交通省が発表した「標準的なバス情報フォーマット」について、広陵町が取組モデル地域に選ばれ、平成30年1月より複数の経路検索サイトに広陵元気号の経路・時刻情報等が提供され、経路検索が可能となった。
- 今後は、交通事業者とも連携し、掲載できる経路検索サイトの拡充やバス情報の更新を図るとともに、広陵元気号を絡めた経路・時刻が検索可能となった旨を町民及び来訪者等に広く発信していくことが重要である。



▲「標準的なバス情報フォーマット」  
情報提供のイメージ



## 課題② 広陵元気号の利用促進（需要創出のための仕掛けづくり）

- 広陵元気号の利用者数は増加傾向にあるものの、一部路線では利用が伸び悩んでおり、極端に利用の少ないエリア・停留所もある。
- 町内唯一の鉄道駅である箸尾駅にも広陵元気号が接続しているが、同駅の利用者数は過去10年で約1割減少しており、駅南部にあった商店街もシャッター街化するなど、駅周辺の衰退が著しい。
- 旧開発団地等の住民の高齢化の進行が予想される一方、町内各地で宅地開発が進み、若い世代を中心に人口は増加傾向にある。子育て世代を含む若年者・高齢者双方への利用促進の働きかけにより、広陵元気号の需要を創出することが重要である。



▲近鉄田原本線・箸尾駅



▲箸尾地区商店街の様子

# 課題解決に関する提案（奈良県広陵町）

## 課題②への提案

### 商業・医療施設・大学等との連携強化

- 平成29年11月から開始したポイント制度（広陵元気号に乗車するとポイントが貯まり、20ポイントで指定施設での対象商品と交換できる制度）の対象施設の拡大や、バス車内に病院・診療所での診察を予約できるタブレット端末等を設置し、受付・待ち時間を短縮するといった医療施設との連携など広陵元気号利用者への特典の拡充を検討することが考えられる。

【参考】「バス車内に医療センター再診受付機を設置（兵庫県三木市）」

⇒ 兵庫県三木市では、北播磨総合医療センター方面行きバス車内に医療センター再診受付機を設置し、バスに乗車しながら診察の予約受付が行えるシステムを導入。

- 平成30年の大和鉄道（現在の近鉄田原本線）開通100周年記念イベントの開催に合わせ、近隣の大学の学生や近鉄等との連携により、箸尾駅前での鉄道・バス合同イベント等の活性化策を実施することも考えられる。

【参考】「和歌山大学・近畿運輸局連携による鉄道・地域活性化プロジェクト」

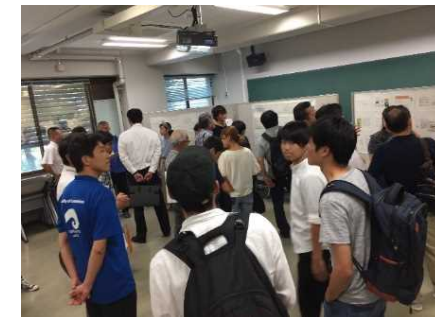
⇒ 近畿運輸局が和歌山大学と連携し「紀州鉄道(株)・水間鉄道(株)・和歌山電鐵(株)の3社連携による沿線活性化プロジェクト」を立ち上げ、各鉄道沿線活性化策の調査・分析を行い、経営環境の厳しい地域鉄道に対して、学生のアイデアを活用した鉄道及びその地域の活性化策を検討・提案。）



▲広陵元気号ポイントカード



▲再診受付機（三木市）



▲和歌山大学  
鉄道・地域活性化プロジェクト



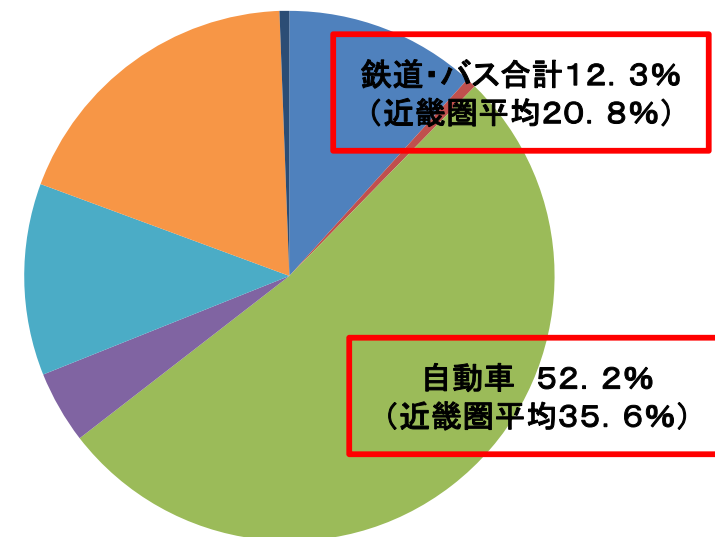


## 課題③ 地域住民の各公共交通機関の利用啓発・意識醸成

- 広陵町、特に東部地域においては、平成15年、21年に路線バスが廃止され町内の公共交通網が大幅に縮小された。平成21年より広陵元気号が運行を開始したが、予約型・無料運行等の方式を経て、有料・定時定路線型の現在の本格的な運行が開始されたのは平成28年とごく最近である。
- この間、町域内では日常的に公共交通で移動するという習慣が育たず、マイカーによる移動が主流となり、町内での公共交通の確保・維持に向けた意識も必ずしも高まっていない。
- 公共交通が多面的な機能を果たしまちの活力を支えており、その衰退がまちの衰退につながることを利用者・住民とも共有し、その確保・維持について地域全体で考え、取組むとの機運を醸成することが必要である。



▲広陵元気号お披露目式（平成28年9月30日）



■鉄道 ■バス ■自動車 ■自動二輪・原付 ■自転車 ■徒歩 ■其他・不明

▲平成22年 PT調査  
代表交通手段別 発生集中量合計

## 課題③への提案

### 町職員による公共交通の積極的利用

- 町民に公共交通への転換を呼びかけるには、町職員自らが率先して通勤や出張等において公共交通を利用することで、公共交通の確保・維持の重要性を町民に発信していくことが重要である。

#### 【参考①】「バス停コンテストの実施（大分県豊後大野市）」

⇒ 地域のバス停について、特に利用者が多いものや地域の事業者が屋根・ベンチなどの環境整備を自主的に行っているものに対し、市が表彰をする「バス停コンテスト」を創設し、地域と協働で利用促進を展開。平成26年地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰を受賞。

#### 【参考②】「豊岡ノーマイカーデー!!（兵庫県豊岡市）」

⇒ 市民みんなで車中心の生活を見直すきっかけとし、公共交通の利用促進、地球温暖化の防止等を推進する取組みとして「ノーマイカーデー」を定期的実施。健康ポイント付与や全但バス路線1日乗り放題（ノーマイカーデー限定）のフリー乗車券等の特典も企画。



▲バス停コンテスト表彰式（豊後大野市）



▲豊岡ノーマイカーデー!!（豊岡市）

## 課題③への提案

### 町民が公共交通の確保・維持に関わる仕組みの構築（モビリティマネジメント）

○ 公共交通は、環境負荷の低減、交通渋滞の緩和、交通事故の減少、健康の増進など、様々な分野での効果（クロスセクター効果）を有しており、公共交通の確保・維持は地域を支えるために必要な取組みであることを広く発信し、町民の公共交通への転換を図ることが重要である。具体的には、以下のような取組みが考えられる。

- ・ 公共交通について住民・交通事業者・行政で学び、考える機会（シンポジウムやワークショップなど）を創出し、公共交通の確保・維持はまちの活性化につながるという意識を共有すること

【参考】「地域公共交通活性化シンポジウム in 紀の川（平成30年1月21日開催）」

⇒ 公共交通はあって当たり前ではなく乗らないと無くなるものという問題意識を共有し、公共交通の将来のすがたを一緒に考えるために開催。交通事業者・市民・行政によるパネルディスカッションの他、粉河高校の生徒たちによる「ぼくらの和歌山線活性化プロジェクト『ワカカツ』」の一環として、JR和歌山線沿線の活性化策についての取組を報告。

- ・ 町が実施している小学生を対象とした「バスの乗り方教室」の対象学年の拡大や親子型イベント化や、行動範囲が町域外へ大きく拡がるのが想定される中学校卒業時等に総合時刻表の配布や主要目的地への公共交通での行き方の周知を行うこと 等



▲クロスセクター効果



▲地域公共交通活性化シンポジウム in 紀の川



▲バスの乗り方教室



# 提案に至るまでの間の取組（奈良県広陵町）

- 平成29年4月～
  - ・地域巡回型健康教室「広陵元気塾」におけるモビリティ・マネジメントの実施
- 平成29年6月～
  - ・小学生向けモビリティ・マネジメントの実施
- 平成29年8月
  - ・地域連携サポートプラン協定の締結
- 平成29年9月
  - ・標準的なバス情報フォーマット取組モデル地域に選定
- 平成29年11月
  - ・標準的なバス情報フォーマットに関する現地視察・意見交換
- 平成30年1月
  - ・標準的なバス情報フォーマットサービスの提供開始
- 平成30年2月
  - ・地域連携サポートプラン課題研究会
- 平成30年3月
  - ・広陵町で初となる「公共交通に関するシンポジウム」を開催



▲地域連携サポートプラン協定締結式



▲小学生向けMM



▲地域巡回型健康教室「広陵元気塾」